

保護者各位

青梅市立霞台小学校

校長 森田 彰

よりよい学校づくりアンケートの結果について

よりよい学校づくりアンケートへのご協力をありがとうございました。本校のよさと改善点を見つけることができました。

保護者アンケートと並行して児童へのアンケート、教職員アンケートも実施しました。三者からの評価を項目ごとに集計し、あわせた数値を評価としています。

1 豊かな人間性と社会性を育てる

「あじみこし」(あいさつ、時間を守る、身だしなみ、ことば遣い心遣い、姿勢)の定着、障害理解教育、いじめの未然防止等についての評価をいただきました。豊かな人間性をはぐくむための取り組みは多くの肯定的評価がありました。特にいじめの未然防止、早期発見と迅速な対応には児童の評価も高くなっています。保護者アンケートでは「ややそうおもわない」と回答されている方が5%います。いじめへの対応は学校としていねいに取り組むことです。安心できる学校になるために、肯定的回答が100%になるように取り組みを進めます。あいさつは関係者から「学校の正門前や地域でもよくしていると思う」という意見をいただきました。あいさつは人間関係を作る大切な習慣です。令和7年度の重点目標にします。

2 学力の基礎基本の徹底、個に応じた支援

基礎学力の形成、体力向上の取り組み、特別活動の改善についての設問です。日常の体力向上の取り組みは定着していると思われます。多くの担任が休み時間に児童と一緒に遊ぶ姿が見られます。また、外部評価でも体育の学習はよい授業をしていると評価をいただいています。運動量の向上が課題となるので方策を決めて取り組みます。学力向上の項目は保護者の肯定的評価が95%であるのに対し、教員評価が65%です。来年度は時程の改善をして朝学習に取り組む時間を確保します。特別活動(体育学習発表会、展覧会など)は各行事でも声を届けていただいております。児童の頑張ってきた姿を見ていただけたことがわかります。行事を「こなす」のではなく、学びの場として計画・立案・実施していることが評価されています。来年度も継続的発展的な学びの場を作ります。

3 家庭・地域との連携と情報発信

本校のこまやかな情報発信を大切にする取り組みは関係者評価でも「各学年の発信内容がわかりやすい」と評価されています。学校公開日でも児童の学ぶ姿を見ていただけていますが、日々の活躍を知っていただけていることがこの評価につながったものと考えます。情報共有の面では欠席連絡を「安心安全メール」でやっていることも保護者として助かるという声もありました。引き続き必要な時に必要な情報を提供、共有できる体制に改善します。

たくさんのご意見ご感想をいただきました。全てのデータを教職員で共有し、これからの教育活動に活かし、よりよい学校づくりをさらに進めていきます。

(裏面に学校評価シートを掲載していますのでご参照ください)

令和6年度 霞台小学校 学校評価シート																	
＜学校経営方針の重点＞												1 豊かな心の醸成	2 確かな学力の向上	3 健やかな体の育成			
学校経営方針	学校経営方針	具体的な内容	肯定的評価				評価	分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と					
			教職員	保護者	児童	平均				評価	コメント	今後の方向性					
1 豊かな心の醸成	豊かな人間性と社会性を育てる	「あじみこし」(あいさつ、時間を守る、みだしなみ、言葉遣い心遣い、しぜいを合言葉に全校体制で基本的な生活習慣の定着に取り組む。	90	89	91	90	A	良い評価を得ているが、あいさつに課題がある。あいさつ運動の時には、自ら進んで元気のよいあいさつができる児童が多いが、運動が終わるとできない。時間を守ることにについては、守らせるからには自らも守ることが大事で、授業の始めと終わりの時間を守っていない教員もいる。	全教職員で児童に声をかけ続けることが必要である。代表委員会を活用して、児童にできることを考えさせることも大事である。児童に時間を守らせるには、教員が日頃の生活の中でも時間を守るように教員が率先垂範して行動で示す。	A	あいさつは朝、校門でも地域でもよくしているように思う。人と人の関係づくりの第一歩となるのが挨拶である。その子に応じた挨拶の仕方があって良いと思う。	「あいさつ」については生活指導の重要項目として年間通して指導していく。					
		校内特別支援委員会を定期開催し、支援を必要としている児童について共通理解を図り協働した対応をする。生活指導協議会で情報共有し、多方面からの支援を行う。保護者・児童にむけて障害理解教育を推進する。	95	82		89	A	各学級の課題がある児童については情報を共有し、ケース会議を行ったり、保護者との面談を行ったり組織的に対応ができています。しかし、不登校児童は減らず、適正な就学ができていない児童が多い。	保護者と面談を行い、実態を把握させたり、子供家庭センターや教育相談、医療等と連携して課題解決を図る。	A	特別支援教育の理解は児童だけでなく、保護者へ理解も十分でない。三校で連携し保護者への講演会等への参加のきっかけづくりになるといいのでは。	保護者と適切な信頼関係を構築し、保護者と学校が協力して児童の健全育成を図っていく。					
		いじめの未然防止に向けていじめに関する授業を各学級で年間3回行い、年間4回のいじめに関するアンケート調査を行う。事案発生の際は迅速に組織的に対応する。	100	92	97	96	A	いじめアンケートをもとにした聞き取りや指導、いじめ対策委員会での情報共有を行い組織的に対応している。結果、重大事態になった事案はない。	継続して年間3回のいじめに関する授業を行い、いじめは学級の全ての児童を不幸にさせることを伝える。	A	校内のポスターや標語等からいじめへの取組の意思を感じる。いじめはないと孫が言っているが、それに嘘はないと思う。いじめ撲滅の取組をよくやっていると思う。	児童が相談できる人間関係の構築やいじめアンケートを通していじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を目指す。					
2 確かな学力の向上	学習の基礎・基本の徹底、個に応じた支援	指導のねらいを明記した週の指導計画を確実に作成実施させ、系統的な学びを進める。朝時間に基礎学力形成を目的とするスタディタイムで全学年で実施する。年間通して放課後補習教室を実施する。	65	95	79	80	B	週の指導計画を作成した上で、計画的系統的な学びを進めることはできたが、十分な学力向上にはつながっていない。スタディタイムを活用した基礎基本を充実させる学力向上策が機能していなかった。	1校時を8時50分から、スタディタイムを8時25分から始めるように時程に変更する。基礎学力の定着を図るため、各学年で計画的な取り組みと効果検証を行う。	A	孫は宿題をすぐに終わらせてしまうが、毎日出ていることで継続的にできている。学力が向上している原因を突き詰め必要がある。算数は基礎基本を楽しく習熟するとよいと思う。PCの活用は有効であると思う。デジタルドリルも手書きができるものもある。	スタディタイムの効果的な活用と教員一人一人の授業力向上、PCの効果的な活用を行っている。					
		縄跳び週間など一校一取組運動や休み時間の外遊び奨励を通して、日常的に運動に親しむ環境を作り、体力向上を図る。	95	87	93	92	A	多くの担任が中休みに外に出て児童と一緒に遊ぶ姿が見られた。多くの児童が休み時間には外で遊んでいるが、外に出ない児童は固定化している。でも、体力向上に結びついていない。	業間体育として、組織的計画的に休み時間に体力向上の取組を実施していく。放課後に外で遊ぶことを奨励していく。	A	体育は良い授業をしていると思う	体育の授業の質的向上や休み時間や放課後の運動量の向上を進めていく。					
		特別活動(運動会、展覧会、卒業式、宿泊的行事、たてわり活動等)はこれまでのやり方にとらわれないことなく、児童にとって価値のある学びの場にするために計画・立案・実施する。	85	97	94	92	A	体育学習発表会の団体競技での作戦タイムや、移動教室での生活、たてわり班活動でのにじいろ集会等で児童が主体的に活動する場面が多く見られた。	継続して児童が主体的に活動できるように教育活動を工夫していく。	A	特別活動では児童が主体的に活動することでこの取組を楽しんでいることを実感した。今後さらに既存の枠組みを超えた児童の主体性を尊重した取組を進めることを検討してもいいのでは。	継続して児童が主体的に活動できるように教育活動を工夫していく。					
3 健やかな体の育成	家庭・地域との連携と情報発信	学校公開・授業参観の開催、年2回の学校評価の実施、月1回発行の学校だよりや週1回のHPの更新により、学校情報をきめ細かく発信し、保護者・地域との連携を深める。	100	92		96	A	学校ホームページの学年ブログや学年だより、学校だより等を通じて積極的に情報の発信をした。担任は保護者と連絡帳や電話を活用して情報の共有を行い、養護教諭は来室の様子を電話で保護者と情報の共有を行った。	引き続きいろいろな方法で保護者と情報の共有・発信を行っていく。	A	学校ホームページの学年ブログがすぐ分かりやすい。校長のブログで学校全体の活動がわかる。	引き続きいろいろな方法で保護者と情報の共有・発信を行っていく。					
		セーフティ教室や交通安全教室を開催するとともに、地域ボランティアの登校見守り、バトロールの実施等により、登下校時の交通事故や郊外での犯罪被害防止に努める。	100	82	94	92	A	セーフティ教室や交通安全教室は外部指導員を講師に招聘した。学期初めと終わりの下校指導や終業式での生活指導主任からの長期休み前の指導等を行ったことから交通事故ゼロを達成した。	保護者と連携の上、継続して指導を行い、事故ゼロをめざしていく。	A	自治会も地域として児童の見守りを考えていきたい。お互いに顔がわかる交流を考えていく。	保護者と連携の上、継続して指導を行い、事故ゼロをめざしていく。					
		こども家庭センターや立川児童相談所等の外部機関との連携や特別支援校内委員会、特別支援教育コーディネータ、教育支援員、スクールカウンセラーの活用を図り、全ての児童が安心して充実した学校生活ができるようにする。	90	90	94	91	A	毎日20人を超える欠席児童がいるが、連絡なく休む児童の保護者との連絡や生存確認に時間と労力がかかる。不登校児童が多いことが大きな課題の一つであるが、子家センや教育相談所等の外部機関やコーディネータ、SC、SSWとも連携しながら組織的に対応している。	保護者会でメールの連絡等を通して欠席連絡の重要性を訴えたり、連絡なく休ませる保護者をなくしたりしていく。	B	連絡なく欠席する児童の保護者への「欠席連絡の理由や重要性」をその都度説明し繰り返し周知するしかないと思う。不登校児童には、学校以外の選択肢を保護者に紹介する機会も必要では。朝の見守りやタヤけランドも児童の様子を把握する場として活用して欲しい。	保護者会で欠席連絡の重要性を訴えたり、メール等で行ってもらったりして、連絡なく休ませる保護者をなくしたりしていく。					